

自 平成27年 4月 1日
至 平成28年 3月31日

事業報告及び附属明細書

平成27年度

亀井南冥と亀井学



筑前五ヶ浦廻船



1 事業報告

平成27年度の事業実施結果について、当初計画に基づき以下のとおり報告致します。

1) 展示

(1) [計画] 「観覧者にわかりやすく、親しみやすく」をテーマとした展示方法の見直しを引き続き推進する。

[結果] 亀井学について観覧者の理解を深めるため、亀井南冥・昭陽の父子二代によって完成された亀井学の内容はもちろんのこと、その完成に至る過程や時代背景が理解できるように解説内容を検討した。

(2) [計画] 亀井南冥・昭陽による亀井学の歴史をより具体的に示す方法を検討するとともに、博物館の展示テーマである「博多湾物語」に関して新たな資料収集とその展示に努める。

[結果] 上記(1)の他、亀井昭陽による著作「烽山日記」の展示と解説を行い、亀井南冥塾居のあと亀井昭陽が隠忍労苦した時代背景が感じられるように工夫した。また、「博多湾物語」関連では、大陸からの戦後引き上げの中心地の一つが博多湾であったため、戦後70周年の節目の年であることも考慮し、米倉齊加年遺作絵本展「おとなになれなかった弟たちに・・・」を開催するとともに、ちばてつや、古谷三敏、高倉健、林家木久扇など総勢100名以上の朗読を収録する8・15朗読収録プロジェクト「私の8月15日～昭和20年の絵手紙」展を開催した。

2) 企画

(1) [計画] 亀井学に関して、亀井南冥の塾及び藩校「甘棠館」の特色、亀井昭陽の努力による塾存立の歴史に焦点を当てた展示を企画する。

[結果] 亀井南冥・昭陽の父子二代によって完成された亀井学の実践たる藩校「甘棠館」と、同時期に開設されたもう一つの藩校「修猷館」の違いを解説する展示を行った。

3) 広報

- (1) [計画] 広報誌「能古博物館だより」を年3回発行する。
[結果] 計画どおり、3回(75号、76号、77号)を発行した。
各号A4版8頁、2500部~3500部の印刷。配布先は、能古島市民、一般市民向け広報ポスト、西区、早良区公民館、各メディア、自治体各部署、美術館、博物館、個人会員、個人・法人寄付者、その他記事関係者など。
- (2) [計画] 年間4回、各1000枚を目処にチラシを作成し、姪浜渡船場、能古島観光案内所、アイランドパーク等に備置する。
[結果] 計画どおり、年間4000枚の広報チラシ「能古博物館の紹介」を印刷・発行した。
姪浜渡船場、能古渡船場観光案内所、アイランドパーク等に配布・備置した。内容は、博物館の概要案内、期間限定展示案内、通し開館や年末・冬季休館と開館日の案内等。
- (3) [計画] ホームページの更新・改善を図り、インターネット上の広報活動の充実を図る。
[結果] ホームページを通じて企画展示内容等をタイムリーに伝えることができるよう、ホームページのメンテナンスを実施した。
- (4) [計画] 能古島内各施設、姪浜及び能古島渡船場内とその周辺および能古博物館広報掲示板にポスターを掲示して休館日等を周知し、博物館来館者の利便性を図る。
[結果] 能古島内各施設、姪浜及び能古島渡船場内とその周辺および能古博物館広報掲示板にポスターを掲示して休館日等を周知するように取り計らった。
- (5) [計画] アイランドパーク、観光案内所、他各施設の協力を発展させるために、日常の交流促進とともに館への見学会などを進める。
[結果] 島内各施設の担当者と情報交換を行うなどして、人的関係の強化および連携充実を図った。

4) 経営基盤の充実

[計画] 公益財団法人にふさわしい展示内容、経営基盤の充実に向けて、入館料、寄附金等の収入財源の確保を重点課題として活動する。

[結果] まずは能古博物館の認知度向上を図ることが重要なため、地域関係者や学生生徒等に対して無料来館なども実施した結果、平成 27 年度の入館者数は 2585 名となった。平成 26 年度の入館者数 2099 名に対して 23.2%の伸びであり、平成 25 年度入館者数 1592 名と比較すると 62.4%増という結果であった。

また、有料入館者数は平成 27 年度は 1763 名となり、平成 26 年度 1115 名に対して 58.1%増、平成 25 年度 950 名からは 85.6%増と大幅な改善を実現した。

平成 27 年度の 1 名あたり入館料は 327 円と、平成 26 年度の 1 名あたり入館料 339 円より微減となった。団体割引適用対象来館者の増加に取り組んでいるため、平成 25 年度の 1 名あたり入館料 357 円と比較すると低い水準を脱し切れない状況が続いている。

しかし、入館者数が着実に増加して能古博物館の認知度が高まっていることも事実であり、(入館料単価よりも)入館者数増加を最重要視する現在の運営方針を当分は継続する予定である。

寄附金については、前年度比 77.7%増の 12,100 千円となった(予算比でも 26.6%超過)。引き続き当法人の支援を各方面に求めていきたい。

このように全体的に順調な業容であったが、減価償却費を含む総費用を賄うだけの総収益は計上出来ず、正味財産増減計算書は赤字決算となった。減価償却費を含まない経常収支ベースでは収支は見合っている状態であり当面の資金繰りに問題は無いが、将来投資の財源を留保するためにも正味財産増減計算書で黒字を達成できるように引き続き尽力したい。

2 会議開催状況

1) 評議員会

開催日 : 平成27年5月27日

内 容 : 平成26年度計算書類及び附属明細 (承認事項)
平成26年度財産目録 (承認事項)
平成26年度事業報告及び附属明細 (報告事項)

開催日 : 平成28年3月29日

内 容 : 平成28年度事業計画書及び収支予算書 (承認事項)
平成28年度資金調達及び設備投資の見込み (承認事項)

2) 理事会

開催日 : 平成27年5月11日

内 容 : 平成26年度事業報告及び附属明細 (承認事項)
平成26年度計算書類及び附属明細 (承認事項)
平成26年度財産目録 (承認事項)
評議員会招集 (承認事項)
平成26年度監査報告書 (報告事項)

開催日 : 平成28年3月21日

内 容 : 平成28年度事業計画書及び収支予算書 (承認事項)
平成28年度資金調達及び設備投資の見込み (承認事項)
評議員会招集 (承認事項)

3 役員等の状況

平成28年3月31日現在

役名	氏名	担当職務
理事	原寛	理事長
理事	西牟田耕治	常務理事
理事	柏木重人	理事
理事	黒田康介	理事
監事	牧健太郎	監事
評議員	原祐一	評議員
評議員	塚本昭二	評議員
評議員	有吉通泰	評議員
評議員	江頭啓介	評議員

事業報告の附属明細書

事業報告書に記載の他、該当無し。